



## 茅野市ぼくらの未来プロジェクト誕生秘話



平成20年から毎年開催されている茅野市子ども会議。昨年までの子ども会議では、子どもたちが自由に意見交換することが重視され、子ども会議運営委員の子どもたちも、子ども会議当日のみ参加の子どもたちも、「意見交換しやすい雰囲気、気軽に話し合いができて、いい会議だった」とのことで、ある程度の満足感があったようです。

ただ、「自由に意見交換」が最終目標となってしまう、「出した意見はどうするの?」という問題点が…。子どもたちを支える子ども会議の大人サポーターからも、子どもたちの意見が実現することで、達成感を得てもらいたいという声が上がったそうです。

そこで平成25年度に、第5回子ども会議の運営委員を中心に、ただ意見を出すだけでなく、自分たちでできることは即実行していく「茅野市ぼくらの未来プロジェクト」が立ちあがりました。

そして、プロジェクトの活動の手始めとして、第5回子ども会議で出た「ゴミとなるものを使ってオブジェを作る」という意見から、空き牛乳パックを使って幼児向けのボールプールを作成し、子ども館0123広場に寄贈されました。

11月には第6回目の子ども会議を、茅野市ぼくらの未来プロジェクトの企画により「愛してるぜ茅野ミーティング」として開催しました。このミーティングで話し合った内容について、今後のプロジェクトの活動の中で活かされるそうです。

ただ意見を言うだけでなく、自分たちで実現させていくってまさに「子どもが主役」の理想形ですよね?そして、大人サポーターの「達成感を得て欲しい」という想いが、このプロジェクトにつながっています。

子ども会の活動も、「子どもが主役」と「大人の後方支援」の両輪が大切ですね。



# ちこれん 茅子連だより第54号

茅野市子ども会育成連絡協議会発行  
平成26年3月3日 編集 広報部

「子どもが主役の子ども会」を育てる茅子連です ※「茅子連」は茅野市子ども会育成連絡協議会の略称です

## ちーぼとゆく! 「ちーぼ」はこんな子



こんにちは。茅野市子ども会育成連絡協議会のマスコットキャラクター「ちーぼ」です。小学生の女の子「アイちゃん」が「ちーぼ」と名付けてくれました。ちーぼのお誕生日は7月26日、6歳の男の子です。ずっと6歳です。ちーぼは八ヶ岳山麓で生まれました。そして今は茅野市役所に住んでいます。トレードマークは「わんぱくのあかし」のぼんそうこう、そしてふるさとの八ヶ岳をイメージした、毛が8本のトンガリ頭。合言葉は「子どもが主役の子ども会」、世界中の子どもたちと友達になるのが夢です。ちーぼの特技は“やんちゃにあそぶこと”。そしてちーぼが挑戦したいことは、スケートと綱引き。校庭リンクでカッコよくすべってみたいです。好きなおやつは牛乳寒です。昨年は、夏祭りやクリスマス会、子ども会の行事にたくさん呼んでくれてありがとう。ゆるキャラグランプリも投票ありがとう。みんなの笑顔に元気をいっぱいもらいました。もっともっとみんなと仲良くなりたいです。みんなが集まるところにちーぼも呼んでね。

H26年2月	H26年1月	H25年11月	H25年4月	H25年3月	H24年4月	H22年	
全日本ジュニアスピードスケート選手権大会応援団長として、選手を応援	お正月休みをいただいてリフレッシュ。新しい年の出勤に備えて、準備万端	初めての県外出張ゆるキャラさみっとに参加。世の中のゆるキャラの多さにびっくりするも、茅野市のアピールに大健闘	茅野市役所こども部「こども部長」に任命される。茅野市の特別住民に登録、特別住民票交付される。公務員になって激務に励む毎日	「どんぐりプラン推進のつどい」にて「茅野市こども・家庭応援大使(どんぐりプラン推進大使)」に任命される	「ちーぼ」歩き始める。茅子連研修会にてお披露目。一年間で46か所、行事やイベントのお手伝いに出動	「茅野市の坊や」から「ちーぼ」と名付けられる(公募による)	茅野市子ども会育成連絡協議会(茅子連)のマスコットキャラクター(イラスト)作成。みかんをキャンパスにして誕生「茅野市の坊や」から「ちーぼ」と名付けられる(公募による)

### ちーぼのあゆみ

## ちーぼの絵日記



1月28日は、茅野といえ、スケートだよ。小学校の校庭リンクでスケートをしてる学校もあるんだって。すごいね。ちーぼもスケートに挑戦したよ。風をきいて、思いっきりスピードのって、気分はソチオリンピック!

## 編集後記

子ども会育成会の役員の方、一年間お疲れ様でした。イベントでは「ちーぼ」とスタッフが世話になりました。今後も皆さんの活動のお手伝いをさせていただけるよう、皆さんと一緒に頑張ります。(ただ、ちーぼについては子どもなので多少の“大暴れ”はお許してください。)

また単位子ども会育成会長さんにお願ひしましたアンケート、ご協力ありがとうございました。「ちーぼ」クイズ(今回は「ちーぼ」の生まれ故郷と年齢を聞いてみました)にも「たくさんのお答え」をいただきありがとうございます。正解は1面にある通りですが、生まれ故郷に「永明寺山」や「小泉山」と書いていただいた方もあり、“山”生まれであることはご存じいただいていたのでよかったです。また、より身近な「山」を挙げていただいたことも、“隣近所の子”のように思っていただけというふうでうれしい限りです。

## 「ちーぼ」の使命

「ちーぼ」は「子どもが主役の子ども会」などの協議会の趣旨が幅広く皆さんに浸透するように、情報の発信や子ども会活動を応援しています。また、「こども・家庭応援大使(どんぐりプラン推進大使)」として茅野市のこども・家庭応援施策の推進のために、内外に対し積極的に普及・広報・啓発していきます。

「ちーぼ」はどんぐりプランの目指す「たくましく、やさしい、夢のある子ども」を体現するキャラクターとして、子どもたちと子育てに関わる大人を応援します。



お知らせ:「茅子連だより」の内容、または「子ども会育成会」について皆さんの意見をお寄せ下さい。また、各地区・単位育成会での活動等で茅子連だよりに掲載・取材を希望する題材がありましたら、ご連絡をお願いします。

連絡先:こども部 こども課 こども係 茅子連広報部事務局  
〒391-8501 茅野市塚原二丁目6番1号 茅野市役所  
TEL:0266-72-2101 内線312  
FAX:0266-73-9843  
E-mail kodomoka@city.chino.lg.jp  
市ホームページアドレス http://www.city.chino.lg.jp  
ちーぼFacebookページwww.facebook.com/chihbo.chino8

ちーぼのFacebookページは、下の①②③のいずれかの方法でご覧いただけます。

- ①「ちーぼ Facebook」と検索
- ②左記のURLへアクセス
- ③右のQRコードを読み取る





## 1年を振り返って

- 毎年恒例の行事の他に、水仙球根植え（小中学生に参加してもらい）を行った。新しい試みに協力していただいた事が嬉しかった。
- 子どもたちがやりたいことを小PTAの方々と協力して取り上げた。仲よしオリンピックは、初めての子どもたちの企画による活動である。子どもたちの積極的な意見を聞いて、企画を練るが、協力する小PTAが1年の任期なので育成会の協力が必要だ。
- 天神祭は本来子どもたちだけで行っていた祭だったが、今は育成会が行っている。出来るだけ子どもが自主的に行える様アドバイスしている。特に詞をとる際の掛け声は子どもたちだけで出来る様指導するが、まだまだである。
- 各行事において、基本的な事柄は役員が指示を行うが、他は子ども（6年生）がルールを作り実施する。参加者には園児、低学年の児童もいるが、このような子どもたちにも配慮し、思いやりと自主性を高めている。子どもたちなりに地域（行政区単位）の組織というものを考えまとめている。今後大人になって消防団や地域活動で繋がりを持ってやっていくことになる。この組織力を高められるよう、子どもたちに理解させ活動を行ってほしい。
- 子ども役員を選出し、各行事の準備から参画している。4～6年の高学年を中心に運営し、保育園の子どもたちも参加しているため、小さい頃から行事に慣れることができる。中大塩区の場合は、小学校が3つに分かれているため、地区全体行事の時にまとまりを欠かないように気を付けている。
- 公民館長と育成会長が兼務の為、活動の主体は公民館になってしまった。公民館として積極的に取り組んでいるお話し会は、四季折々に応じての活動が出来ており、未就学児童からお年寄りまで参加を頂き有意義な公民館活動になっていると思う。地域としての組織が機能することが、最優先だと考えている。1年単位で育成会長が変わっていることと、館長との兼務が問題かとも思うが、組織改革が必要かと思った。
- 自分たちが楽しんだり、区・公民館行事に協力するだけでなく、自分たちが企画・運営し区民の皆さんを招待するといった事ができると良いかと思う。（発表会、学習会、バザー、フリーマーケット等）
- 公民館と行事を共催するなどして、にぎやかに楽しく行っていただきたい。
- 地域には年配者がたくさん居るので、昔の地区の話を聞いたり、手仕事の技を覚えてもらうなどの交流の場がもてれば良かった。
- 子どもから大人までみんなでスポーツなどやってみたいと思った。
- 子ども会、PTAの活動に関心は持っていたが、直接積極的にかかわる事は少なかった。区の事業の役員として活動し、間接的にかかわる事はあったが、育成会単独の活動もなかった。
- 学校側と共催した行事だと参加する子が増えると思う。
- 直接運営に携わる訳ではないが、地区のお祭りにちーぼを招いてもよいなと思った。
- 難しく考えず、今の行事をなるべく“子どもが主役”で行う事を心掛けたいと思う。
- お楽しみ会や夏祭りでの出し物が例年通りということが多いので、6年（5、6年生）を集めて計画を立てるための研修のようなことをしてみようか。
- 育成会とPTAとの関係、特にPTAが子どもの自立について消極的に見える事が残念だった。
- PTA主導で進めていくので、育成会の必要性をあまり感じなかった。
- 予算が少ないため、十分な活動ができない。

## アンケートから見える子ども会“あれこれ”

### ～伝える～

- 子どもだけでなく、高齢者の方も一緒になって行事をしてもいいよね。地域の伝統を語り継いでもらったり…。

### ～つながる～

- 子ども会って保育園から高校生まで続いているんだよね。その中で生まれた絆が、消防団や若者会など地域活動につながっていくんだね。

### ～課題～

- 子どもが少ない、予算がない、大人主導の行事になってしまうなど課題も多いよね。

### ～試行錯誤～

役員の複数年化を考える（玉川地区）  
「子ども会育成会」とは「子ども会」活動を支援する大人の組織であることをふまえ、茅子連が推奨する「子どもが主役の子ども会」を玉川地区子ども会育成会としてはどのように取り組んでいけばいいのかを検討する機会（前年）を設けた。

- とりあえず「玉川地区子ども会」を作って活動してみる。
- 玉川地区子ども会育成会の役員を会長1名（輪番選出）副会長1～2名（前年度玉川地区子ども会育成会会長・茅子連常任理事）に規約変更、副会長は茅子連地区推薦理事となる（各単位役員の複数年化は今のところ難しいため、まず地区子ども会の役員任期を複数年にすることを考えた）
- 玉川地区子育て部会の協力を得て、玉川地区コミュニティまつりに子ども会として参加させてもらう。新しい体制になって2年目、子どもたちが「主役」になれるようどうかわかっていくかを考えるが、まずは子どもたちに知ってもらうこと・慣れてもらうこと・楽しんでもらうことから始めた。

「子ども会」は未就学児童だけ、小学生だけという限られた集団ではなく、広く地域の子どもを対象にしていることから、限られた予算や時間の中で活動するにあたり他団体との協力・共催等はとても大切です。また「子ども会」という名前に縛られることなく文化の伝承活動やボランティア活動を行っている子どもたちの集まりもひとつの「子ども会」といえます。そういった中で、行事を行うことがなくても子ども会育成の理念を啓蒙していくことが大切です。個々の活動がすぐに成果と結びつかなくても、ずっと先の“子ども”たちのために、“子どもたちの成長にかかわる地域の大人”として、育成会の活動にかかわっていただく、今の皆さんの協力が必要なのです。また育成会の活動が地域育ちにつながり、どんぐりプランの推進にもつながっていきます。そしてそんな活動を地域のみなさんにも担っていただいています。茅子連では、参考事例のご紹介や「子ども会」活動のお手伝いをさせていただきます。

### ～地域全体で～

- 子ども会育成会だけでなく、区や公民館なども一緒に地域全体で子ども会を支えることが大事だね。

## What's 子ども会？

### 茅子連とは？

茅野市子ども会育成連絡協議会（茅子連）は茅野市こども・家庭応援計画（どんぐりプラン）を支える団体のひとつとして、地域における「子どもが主役の子ども会」作りを応援することで、どんぐりプランの施策（地域行事の開催と子どもの参加促進や体験活動の場の提供、子どもと大人とが対等な立場で向き合う場の提供と取組支援）の担い手になっています。

### 子ども会育成会とは？

子ども会育成会の活動は「行事」を励行することではなく、「子どもたちのための子ども会が安全に楽しく行われるように子どもたちの運営を支えること」です。活動や体験の場の提供や子どもたちのための活動計画をたて、子どもたちに直接関わることは子どもたちが決定していくことを支えてあげてください。

### 子ども会とは？

「子ども会」は、幼児から高校生年齢相当程度までで構成され、地域を基盤とした異年齢集団です。子ども会のねらいは、年齢の異なる子ども同士が、自主的・主体的に様々な体験をすることで、真の友達作りや生きる尊さを学ぶこと（仲間と活動を共有し自分たちの手で運営していく自治集団を志向する）を目指しています。茅子連の目指すところもここにあります。

### 参考：子どもたちの健やかな成長を願って…

茅野市では平成25年1月1日に「茅野市たくましく・やさしい・夢のある子どもを育む条例」が施行されました。市民一人一人ができる範囲で役割を果たせばいいですよ。

前文（抜粋）  
私たち市民は、次代を担う子どもたちが、「少しの困難にあってもへこたれない、たくましく生きる力を持った子ども」「命を大切に、相手のことを思いやれるやさしい心を持った子ども」「一人ひとりが自分の夢を持って、それに向かって努力する子ども」に育ってほしいと願っています。そのために、私たちは、子どもたちが茅野市の豊かな自然と文化の中で様々な体験を積み、人と人との交流を通してお互いの個性を認め合い、生きる力と感謝の心を育てていくことを応援します。…

（地域の役割）  
第7条 地域の住民及び地域の関係団体は、子育てを地域全体で取り組まなければならない課題と捉え、子ども及びその家庭を応援することに積極的に関わり、地域の中で子どもが健やかに育つ環境づくりに努めるものとする。

（市民の役割）  
第8条 市民は、安心して子どもを生み、又は育てることができる社会の実現に資するため、あいさつの励行、地域の行事への参加等を通じて、良好な地域社会の形成に努めるものとする。